

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 3371100433 | | |
| 法人名 | (株)メディカメント | | |
| 事業所名 | グループホームいやしの家備前2 | | |
| 所在地 | 岡山県備前市伊部323-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年2月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和元年5月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あしすと |
| 所在地 | 広島県福山市平成台31-34 |
| 訪問調査日 | 平成31年3月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『備前焼の里』と言われている静かで落ち着いた環境の中、朝は日光浴をかね玄関のベンチで歌を歌ったり、体操をして始まります。そのあとは家庭菜園や花壇の草取りや水やり、玄関の掃除など思い思いの時間を過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「備前焼の里」にある事業所は周囲には田畑もあるが、住宅が増加して景色の変化が著しい。利用者は玄関のベンチで日光浴をしたり、家庭菜園や花壇の草取りや水やり、玄関の掃除など思い思いの時間を過ごされている。事業所の優れている点は、職員間でコミュニケーションが良く取れていて、明るく、利用者が穏やかに過ごされていること。職員の居室担当があり、整理整頓・清掃が行き届き、1週間ごとの布団乾燥やシーツ・パジャマの洗濯、衣服のゴムの交換など手入れが行き届いている。歩行と椅子への移乗に努めており、利用者の身体機能が維持でき、介護度には比べ活動的である。食事が3食手作り、利用者の嗜好に合わせて調理し、職員も一緒に味わい、和やかに利用者の食事摂取も進み、体力維持ができてきていることなどがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 特定非営利活動法人 あしすと | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフルームに理念を掲げ、二か月ごとのカンファレンスで理念を共有している。 | 理念について、新しい職員には個別に説明している。スタッフルームやリビングに掲示し、カンファレンスの議題用紙の最初に理念を打ち出して、職員が共有している。日々のミーティング時には、理念を基に話し合い、実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の保育園児の慰問や地域のボランティアの方たちと交流を深めている。 | 地域のひな祭りや備前焼まつりに利用者が参加して楽しんでいる。コーラス・絵手紙・カラオケ・踊り等地域の人が定期的にボランティア活動をし、中学生の夏のボランティア・保育園児の訪問がある等、日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎年夏休みに中学生のボランティアを受け入れ認知症の理解を深めてもらっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行政、民生委員、家族に参加して頂き近況報告や話し合いを行いサービス向上に活かしている。 | 今年度は行政・民生委員・家族の参加を得て、会議を2回開催している。事業所の近況報告をし、地域や家族の状況を話し合い、サービス向上に活かしている。 | 今後は会議の開催日時や内容を早めに決定し、行政・包括支援センター・地域の役員等へも案内を出し、参加を得て、より有意義な会議になるよう期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 入居状況など必要に応じて連絡を取っている。 | 介護認定や申請については、管理者が市役所に出向いて行っている。市からの研修案内に職員が参加してスキルアップに役立っている。備前のグループホーム連絡会において、包括支援センター職員から情報を得ている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度行い、基本的な禁止の対象は理解し、疑問などは話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束適正化委員会でセンサーや柵、言葉の拘束などについて資料を基に話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は保安のために夜間のみ施錠し、開錠中はセンサー対応しており、無断外出される人には見守りをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止について事業所内で勉強会をとうし職員の理解を深め知識の向上をはかる。職員間でお互いのケアの仕方注意を払い防止に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し学んだことは職員間で共有している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居相談、契約時にはゆっくり時間をかけ、家族が質問をしやすいように心がけている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に家族に出席して頂き近況報告をしたり意見を聞いて運営に反映している | 家族からは運営推進会議や、来訪時に状況報告をしたり、介護記録を開示して意見を聴いている。利用者からは、入浴時やレクリエーション・お茶タイムなどリラックスしているときに話されることを聴いて、反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 二か月に一度ミーティングを開き意見や提案を聞き反映させている | ミーティングや、随時行う個人面談により職員の意見を聴き、勤務内容や業務の流れ・利用者のケアなどについて、反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 月一回の管理者会議で状況を報告し整備に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を受ける機会を確保しやすくように勤務調整などで協力している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホームの管理者が定期的集まりそれぞれの活動報告をして、サービスの質の向上に取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 不安の多い初期には細かな配慮を心がけ不安なく過ごせるよう寄り添い信頼関係づくりに努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期の段階では特に状況を細かく報告して信頼関係づくりに努める | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 希望するサービスを見極め、そうだんしながらできる限りの対応に努める努力を心掛けている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の残存能力が活かせるように過度の介護をせず家事などのできることは職員と一緒にしていただくようにしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には居室でゆっくり過ごして頂き、問題点があれば一緒に本人を支えていく支援をしていく | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの関係が途切れないよう面会に来やすい雰囲気作りを心がけている。 | 家族や孫・友達・知人等来訪時には、挨拶をして歓迎の意を示し、訪問しやすい雰囲気づくりをしている。また、花見などでドライブに出かけたときに、利用者の実家のそばを通り、利用者の思い出を話題にするなど関係継続の支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は一人一人の個性を把握し利用者が孤立しないよう支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も気軽に訪問しやすい環境を作っている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの意思を尊重してできるだけ本人の希望を一番に考えるようにしている | 利用者の生活の中での言動から、意向を汲み取っている。食べたいものをきいたり、実際の食事場面から好き嫌いを把握し、新聞の相撲欄を見る・草取りをするなどの行動から、利用者の思いや暮らしの希望を把握している。困難な場合は家族から情報を得て、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に今までの生活歴の聞き取りをしっかりとし入居後に活かしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員は日ごろからしっかり様子観察して変化のあったときは申し送り、現状の把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスでケアプランの見直しをして、家族の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している | 2カ月毎のミーティングで、利用者個々について話し合いをしている。介護計画の見直しは最長1年で、また、状況に変化があった時には随時行っている。家族や医師・看護師の意見を聴き、ケアマネージャーが中心になって、カンファレンスを行い介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活やケアの様子が見えるような記入をし、家族、職員間で情報を共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 今までの生活歴や家族の状況に合わせ一人ひとりのニーズに合った対応をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域でのイベントなどに参加して楽しめるよう支援している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は本人と家族の希望を優先し適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は本人・家族の希望を優先している。協力医の往診は月2回あり、訪問看護師が月3回状態観察して医師と連携している。夜間・緊急時の受診についても対応できる体制としている。歯科についても、状況により訪問または受診で診察が行われるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期的な訪問看護で日常の様子を報告し、必要があれば主治医に相談して適切な適切な受診を受けられるように支援している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 訪問看護や往診時にしっかり情報を伝え早期治療に努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医療行為がない場合は家族の希望を優先し主治医と話し合い納得のいく支援に取り組んでいる | 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明し了解を得て、状況が変化した時に確認しなおしている。実際に重度化した時には、家族・医師・看護師・事業所で話し合い、家族の意向に沿う様に支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 日ごろから様子観察をしっかりとし初期対応の時期を逃さない実践力を身につけている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼、夜の想定で年二回避難訓練を行っている | 年2回、昼・夜想定で火災避難訓練を行っている。震災・水害時の避難については、法人内他施設との連携の取り決めがある。備蓄については、備品・食料品等確保している | 避難訓練の振り返りを文章化して、職員で共有し、有事に備えることを期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格を重視した対応を心掛けている | 呼名は苗字にさん付けで行うが、同姓者には名前で呼ぶなど個別に対応している。レクリエーションも本人の希望を優先し、一人ひとりの性格に合わせて、誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけや対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | トイレ誘導や入浴などの都度希望を聞き自己決定ができるように働きかけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 今までの生活歴を大切に押し付けにならないよう一人ひとりのペースに沿って支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの服を選んでいただいたり意思表示の困難な方には同じ服に偏らない配慮をしている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の食材で季節感を出したり好みを聞いたり準備や片付けも一緒にしている | 季節の食材で季節感を出したり、利用者に好みを聞くなどして、職員が順番に1週間ずつメニューを作成して調理している。家庭菜園で野菜を収穫・下ごしらえ・盆やテーブル拭き・下膳などを一緒にし、職員と話をしながら食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量や水分量は体調を把握し摂取しやすいよう工夫をして提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアはできないところは介助し、入眠前には義歯の消毒を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄シートでパターンを把握しトイレでの排泄を基本にしている | 排泄シートでパターンを把握し、声掛けをして、全員トイレで排泄している。自立のために、車いすの人も椅子に移乗して過ごし、トイレのついでに回廊を遠回りして戻る・手すりを持って足上げ運動・玄関先のベンチで外気浴など、日常生活の中で無理なく行い、身体機能維持の支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの排便リズムを把握して 飲食物の工夫や薬の調整を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴でゆっくりと湯船に浸かって頂き入浴後は保湿ケアにも努めている | 週に2回、午後に、浴槽につかり、職員とゆっくり話をしながら入浴している。順番を調整して好みの湯温で入り、シャワー時も足浴をしながら温かくしている。入浴後の保湿ケアにも留意している。拒否時には、日や時間・人の調整をして入浴の支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間を決めず就寝まで思い思いの時間を過ごして頂き、気持ちよく休んで頂けるよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は一人一人の薬を把握しており疑問のある時は薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの張り合いや生きがいにつながることを見極め支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 桜、藤、コスモス、バラ、紫陽花、紅葉など季節を感じていただける外出をしている。 | 玄関のベンチでの外気浴・日光浴、庭や事業所周圍の散歩は日常的に行っている。桜の花見のドライブは全員で出かけた。季節の花見や地域の備前焼まつり・ひな祭り・文化祭などに出かけて楽しんでいる。家族と共に外食に出かける人もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望があれば買い物に同行したり、代理で買い物をする支援もしている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族から友人や親戚の連絡先を聞いておき、いつでも連絡ができるように支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 混乱を招くようなものや障害になるものは除き季節感のあるもので工夫している | 共有空間では、回廊は天窓により採光をとっているため明るい。玄関にはボランティアにより、絵手紙が掲示しており、毎月更新されている。リビングには季節のタペストリーや、作品のカレンダーなど貼って、季節や日にちを確認できるようにしている。窓が広く、畳スペースやソファのコーナーもあり、ゆったりしている。利用者は机に向かって思い思いのことをしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや畳の間など思い思いに過ごせる場所を作っている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人が居心地よく過ごせるよう、本人や家族と相談し使い慣れたものや好みのものなど置くなど工夫している | 居室には担当職員がおり、片付けや清掃が行き届いている。布団やシーツ交換を1週間に1回行い、パジャマの洗濯、衣服のゴム交換など手入れもできている。自宅から椅子や小机・テレビ・家族の写真・ぬいぐるみなど気に入ったものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自走式車イスの利用者が自由に安全に移動が出来るように障害になるものを置かないようにしている | | |